

太白ゴマ油を用いた口腔ケア°ローチによって得られた効果と看護師の評価

～オイルの力を plus～

和歌浦中央病院 看護部 山下文佳 高井直子

I、はじめに

入院患者の高齢化に伴いセルフケア能力が低下している患者が多く、口腔ケアは看護師の重要な役割となっている。口腔内清潔を保ち口腔機能の働きを維持することによって、誤嚥性肺炎などの合併症の予防になることも研究で示唆されている。

口腔ケアを手順化して行っているが、患者によっては、口腔内環境を清潔にできていない現状もあった。現在行っている口腔ケアに加え、太白ゴマ油を plus した口腔ケアを行うことで、有効な口腔ケアを提供できる事を目的に本研究を行った。

【口腔ケアの現状】

要介護高齢者に対して、基本的に 1 日 2 回の口腔ケアを実施 ➡ 平日 9 時・13 時 / 土日祝日 9 時
口腔ケアの使用物品 ➡ 10 倍に希釈したオシロール・ガーゼ・スポンジブラシ・口腔ケアジェル・歯ブラシ・口腔ケアスプレー・歯間舌ブラシ



毎日上記の物品を使用し、1 日 2 回口腔ケアを行っていた。口腔ケアをする中で、口腔内の汚れが強い患者は、特に唾液分泌が少なく口腔内乾燥が伴い、汚染物が粘膜に張りつき取り切れない事があった。口腔ケアジェルは、口腔内に残ってしまうとジェル自体が更に汚染が増す原因になるとの報告もあった。そのため、ジェルを取りきる必要があり手間がかかるので、使いやすさでは劣る事もあった。口腔ケアスプレーでは、ジェルと比較すると、口腔内にスプレーを散布するだけとの使い易さはあったが、液体のため誤嚥のリスクがない患者のみの使用となっていた。効果的なケアできる方法を思案するうちに、太白ゴマ油を使用した先行研究の報告例や、既に使用して

いる患者の実例があったため、今回、口腔内汚染や乾燥が強い患者に対して、太白ゴマ油を使用した口腔ケアを実施し、その効果や看護師の評価を検証した。

II、研究期間・対象・方法

1. 研究期間 2024 年 1 月～3 月
2. 研究対象者 要介護高齢者
3. 研究方法

(1)要介護高齢者へ口腔ケアを以下の手順で行う。

- ①口腔ケアを 9 時・13 時、汚れが強い場合は 21・6 時も追加する。
- ②口腔内汚染物をスポンジブラシで除去し、残存歯がある場合はブラッシングを行う。10 倍に希釈したオシロールをガーゼへ浸し優しく清拭する。
- ③太白ゴマ油を約 2ml スポンジブラシに含ませ口腔内で塗布する。
- ④口腔内汚染や乾燥が強い患者は、太白ゴマ油を 6 時・0 時等に塗布回数を増やす。

(2)看護師へのアンケート調査

- ①対象者の口腔内乾燥／口腔内汚染の改善度
はい・いいえ・どちらでもない・その他の 4 段階評価
- ②太白ゴマ油の効果がある／使いやすさ
はい・いいえ・どちらでもない・その他の 4 段階評価

(3)太白ゴマ油の検証

- ①乾燥度合の検証
- ②粘稠度合の検証



III、倫理的配慮

対象者のプライバシーに配慮し、家族に研究内容を文章と口頭で説明し同意を得た。意思疎通が困難な患者には、実施中の表情に注意し、不快・苦痛表情がある時は研究を中断する事とした。

IV、研究結果と成果

(1) 研究対象者の口腔ケア前後の口腔内の状態

【事例 1】A 氏 80 歳 男性 誤嚥性肺炎で入院。廃用症候群にて嚥下機能低。経口摂取出来なくなり胃瘻を増設した。喀痰の貯留多く 3 時間毎の吸引必要であり、咽頭部にかけて喀痰の汚染が強かった。開口傾向で、口蓋や歯間部に乾燥した喀痰が多く付着していたため口腔ケア回数を増やし、乾燥予防に太白ゴマ油の塗布回数を増やした。

《使用前》



9 時・13 時・20 時に口腔ケア＋太白ゴマ油塗布
0 時・6 時に太白ゴマ油塗布

《約 1 週間後》



喀痰が多く口腔内汚染はあるが、汚染物を容易に除去でき口腔内清潔を維持する事ができた。

【事例 2】B 氏 80 歳代 女性 慢性腎不全末期人工透析加療にて入院。腎性貧血と骨髓異形成疑いにて出血傾向あり。口腔ケアで容易に出血が見られ、口腔内は乾燥傾向で血餅が著明にみられた。残存歯が下のみで開口もしてくれたため口腔ケア回数を増やし、乾燥予防に太白ゴマ油の塗布回数を増やした。

《使用前》



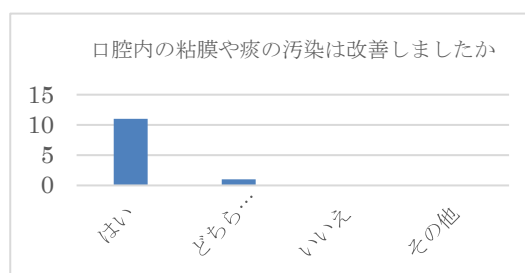
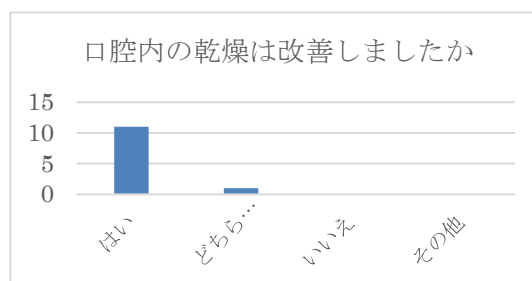
汚染強かった時⇒口腔ケア＋太白ゴマ油塗布 6 時・9 時・13 時・20 時／太白ゴマ油 0 時・3 時塗布
《約 1 週間後》



汚染が軽減すると共に口腔内血餅が改善され、口腔ケアの回数を減らすことが出来た。

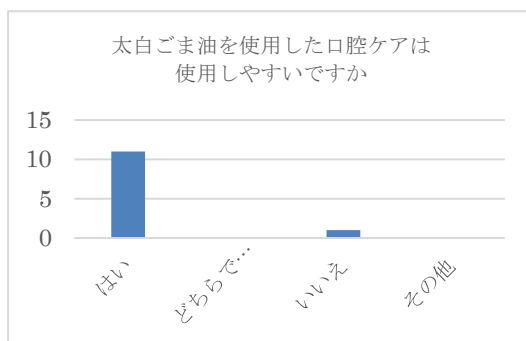
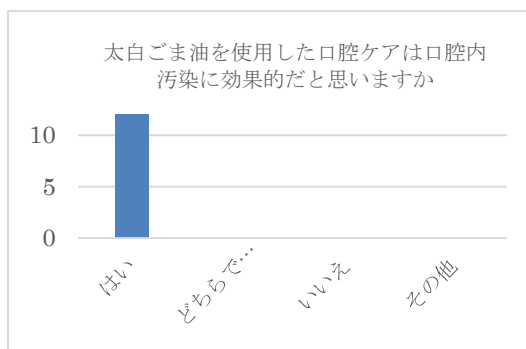
(2) 看護師へのアンケート結果

①対象者の口腔内乾燥／汚染改善のアンケート結果



口腔内乾燥と汚染の改善について、「はい」が 11 人/12 人であり、乾燥と汚染の改善に効果があると判定できた。

②太白ゴマ油使用した口腔ケアの効果と使いやすさについてアンケート結果



太白ゴマ油を使用した口腔ケアでは、汚染の改善に効果的であったかは、「はい」が 12 人/12 人と全員効果あるとの判定を得られ、使いやすさについても、「はい」が 11 人/12 人との結果であり、高い評価が得られた。

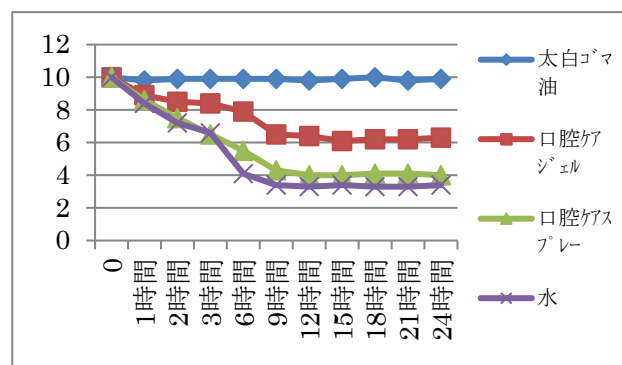
以上のアンケート結果から、研究対象者の口腔内の乾燥と汚染の改善効果が高く、使用感についても高い評価が得られた事が判定できた。

(3)太白ゴマ油の検証

①乾燥度合についての検証



太白ゴマ油・口腔ケアジェル・口腔ケアスプレー・水を食用色素赤で着色し、容器を含め 10 g (紙皿≒3.4 g) にし、室温 30 度前後に設定で、1 時間後・2 時間後・3 時間後・6 時間後・9 時間後・12 時間後・15 時間後・18 時間後・21 時間後・24 時間後に重量を測定し乾燥度合を数値化する。



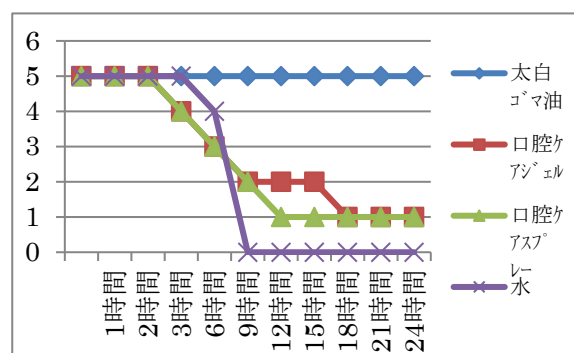
《結果》

太白ゴマ油は、24 時間経過してもほぼ重量は変わらなかった。その他は、時間の経過とともに重量が減少した。

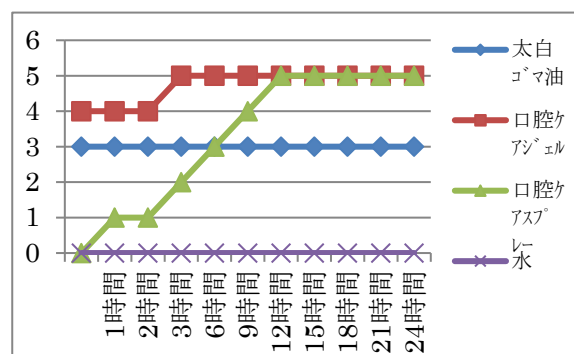
②目視での乾燥や粘稠度合の変化についての検証

①と同様の状況で時間毎に付箋へ付着し、付着度合と目視による粘稠度合いを‘なし=0・低=1・やや低=2・中=3・やや高=4・高=5’で数値化し評価する。

《付箋への付着度合》



《目視的粘稠度合い》



《結果》

太白ゴマ油の付箋への付着度合は高く、中程度の粘稠度を維持し 24 時間経過しても変化がなかった。

以上の①②の結果から、太白ゴマ油は 24 時間経過しても重量の変化がないことから乾燥せず、付箋の付着度合が高かった。また、中程度の粘稠度を維持し 24 時間後も変化ない事から保湿効果が高い事が判定できた。

V、考察

研究対象者の口腔内が清潔になり、アンケート結果からも口腔内の乾燥や汚染が改善でき、太白ゴマ油の使いやすさやについても高い評価が得られた。そして、太白ゴマ油の物品の検証を数値化して調べたことで、太白ゴマ油は時間が経過しても乾燥に強く、適度な粘稠度を維持できることから、保湿効果が高く、口腔ケアへ使用する事に有効性がある事が判った。

看護業務での口腔ケアは 1 日 2 回から 3 回程度行われ、口腔内に約 8 時間汚染物が滞留することもある。また、口腔ケアをする時間は限られ、一人当たり 2～10 分程度であり業務内に十分なケアが出来ない現状もあった。非経口摂取の要介護者は咀嚼や嚥下が困難なため、口腔粘膜の一部が残存すると堆積した旧上皮となり、そのまま汚染物へと変化し汚染しやすい状態になっている。口腔内汚染が続き、そこに乾燥が伴うと汚染物が皮膚粘膜に付着し、除去する時に上皮粘膜を剥離するリスクが高く、ケアの困難さが増していた。そのようなにならないようにするためには、汚染物を保湿剤で浸透させ軟化させる必要があり、既存の物品は軟化させるのに時間がかかり、業務時間内に汚染物を除去しきれなかった。そこに、保湿効果がある太白ゴマ油を塗布したことで、ケア時には汚染物を軟化された状態となり粘膜を損傷することなく簡単に除去できた。また、口腔ケア時に、汚染物が軟化され除去しやすい状況にあることは、業務内に効率的に口腔ケアをすることができ、口腔内清潔を維持できる事に繋がった。今までの口腔ケアの困難さが解消され、口腔内の汚染や乾燥の改善を実感できた事が、看護師の高い評価に繋がったと考える。ハーズ

バーグの動機づけ理論の要因には、「仕事の達成感、能力向上や自己成長などがあげられ、満足度があがるとモチベーションを向上させることができる」と提唱している。看護する側も、「口腔内清潔を維持できた」＝「よりよいケアが提供できた」と仕事の満足度が上がり生産性も向上したと考える。結果、太白ゴマ油を使用した口腔ケアは、患者側へも看護師側へも良いアプローチ方法となったと考える。

VI、おわりに

要介護状態にある高齢者にとっての口腔ケアの重要性、現状、問題点を示し、太白ゴマ油を plus した口腔ケアを実施し、その後看護師の評価と太白ゴマ油の物品の評価を数値化し検証を行った。結果、太白ゴマ油は保湿効果があり口腔内汚染除去に対して有効性があることが示された。また、太白ゴマ油の保湿力によって、口腔ケア時に汚染物が軟化され、皮膚粘膜を損傷せず除去できたとは、看護業務の時間内に効率的にケアを行うことができ、生産性も向上できた。

今回、要介護高齢者を対象としたが、対象者を拡大できる可能性がある。その場合の問題や使用感の評価が出来ていないため、今後妥当性を失わず実施の可能性を高め継続して検討していきたい。

参考文献・引用文献

- ・白ゴマ油の勉強会レポート <http://boc-provider.info> 参照 2024-4-22
- ・小川敏子(2016) 論文題名「施設で療養中の嚥下障害を有する要介護者高齢者に対するゴマ油を用いた口腔清拭のケアプロトコルの作成と評価」千葉大学出版
- ・青森県立中央病院 在宅がん患者への口腔ケアマニュアル <http://aomori-kenbyo.jp> 参照 2024-5-10
- ・フレデリック・ハーズバーグ 仕事と人間性：動機づけ-衛星理論の新展開 東洋経済新報社 1968 年